



【監修】 小山静子（京都大学大学院教授）
【体裁】 A5判上製・セット兩入・総約2,000頁
【揃定価】 本体 160,000 円＋税 ※分売不可
ISBN978-4-7601-4783-0

おすすめします

日本近代史／近代女性史／近代教育史／近代文化史／ジェンダー史／
家族史・家政史／風俗史・社会史／メディア史／大学図書館・公共図
書館

柏書房の女性雑誌・新聞資料集			
明治期女性雑誌集成			
女学新誌／日本之女学	復刻版 全8巻（刊行済）		
小山静子監修	A5判 揃定価（本体180,000円＋税）		※分売不可
明治期女性雑誌集成 2			
女学叢誌／文明之母	復刻版 全8巻（刊行済）		
小山静子監修	A5判 揃定価（本体180,000円＋税）		※分売不可
貴女之友			
復刻版 全8巻（刊行済）			
小山静子監修	A5判 揃定価（本体180,000円＋税）		※分売不可
愛国婦人			
明治期復刻版 全11巻 全2回配本（刊行済）			
小山静子監修	B4判 各配本揃定価（本体250,000円＋税）		※分売不可
女学世界			
明治期復刻版 全96巻 全12回配本（刊行済）			
小山静子監修	A5判 各配本揃定価（本体160,000円＋税）		※分売可
女学世界			
大正期復刻版 全81巻 全12回配本（刊行中）			
小山静子監修	A5判 各配本揃定価（本体180,000円＋税）		※分売不可

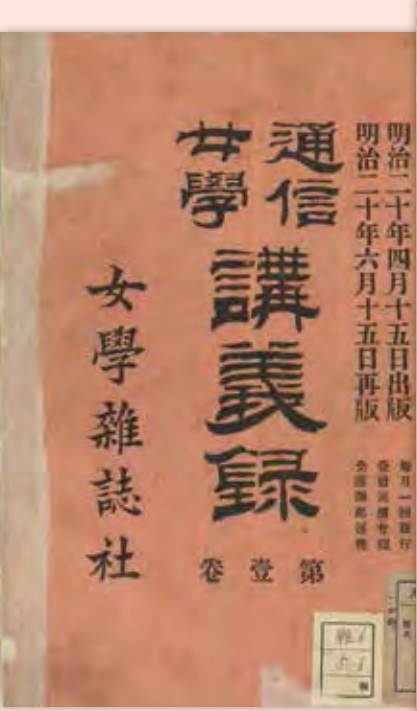
柏書房

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-15-13
TEL：03-3830-1891 FAX：03-3830-5337
<http://www.kashiwashobo.co.jp>
E-mail: teigyo@kashiwashobo.co.jp

取扱店	
-----	--

大日本帝国憲法が發布された1889年（明治22）前後の日本における婦人の在り方。彼女らは西欧化を目指すべきなのか、あるいは和洋折衷化を目指すべきなのか？

『女学雑誌』の姉妹版『通信女学講義録』と『反省会雑誌』（『中央公論』の前身誌）の姉妹版『婦人世界』。そして『文明之母』のライバル誌『日本新婦人』の三誌を初めて復刻！



『通信女学講義録』創刊号の表紙。第15号までデザインは変わらず。



『日本新婦人』創刊号の表紙。上部に「THE NEW WOMAN」、下部に「I AM THE MOTHER OF CIVILIZATION」とある。



『日本新婦人』第5号～第12号までの表紙。デザインと雑誌のサイズがB5に変更される。



『婦人世界』創刊号の表紙。補修のために和紙が貼られている。



『婦人世界』第6号の表紙。デザインと雑誌のサイズが変更された。補修のために和紙が貼られている。

『通信女学講義録』『日本新婦人』『婦人世界』とは

明治期の女性雑誌は、1884年（明治17）6月創刊の『女学新誌』（1885年〈明治18〉9月終刊）から幕を開け、翌1885年（明治18）7月には明治期を代表する『女学雑誌』（1904年〈明治37〉2月終刊）の刊行が始まった。

『通信女学講義録』は、『女学雑誌』の発行元である女学雑誌社から1887年（明治20）4月に創刊され、1888年（明治21）11月で終刊を迎えた雑誌で、全15号のうち14号分が残る（ほぼ月刊。第9号が欠）。本文は60～82頁建てと、号によってばらつきがある。「持主兼編輯（編輯兼発行者）」は女子教育に尽力した巖本善治（創刊から第15号まで。彼は『女学雑誌』の編集人でもあった）。創刊号の発行主旨には「妻君母親たちの都合を計りて……家内に居ながら少々宛の余暇を竊みて、学文さるゝやうの法方を備へ、二三年にて耻かしからぬ程の学力を得さするやう教授すべし」とある。すなわち、女学校へ通うことができない女性に対して、開化の時代を生きる上での必要な知識を授けることを目的としていた。

『日本新婦人』は、新婦人社から1888年（明治21）9月に創刊され、1889年（明治22）8月に終刊を迎えた雑誌で、全12号のうち11号分が残る（月刊。第8号が欠）。創刊号から第4号までの表紙には大きく「THE NEW WOMAN」と書かれ、さらに「I AM

THE MOTHER OF CIVILIZATION」とも書かれている（第5号から表紙のデザインが変わり、欧文は無くなる）。本文は32～40頁建てと、ばらつきがある。「発行兼印刷人」は清水文之輔（創刊から第12号まで）、「編輯人」は桑原八司（第9号まで）が務めた。創刊号の発行主旨には「明治の新智識を具へ、文明の新学芸に達し、日本の富財上に大利益を与へ、世態人情に明敏なる婦人」を養成すべきことを謳っている。

『婦人世界』は、浄土真宗本願寺派の令徳会雑誌部から1889年（明治22）10月に創刊され、1890年（明治23）12月で終刊を迎えた雑誌で、全15号が残る（月刊）。本文は24～40頁建てと、ばらつきがある。創刊号には「THE LADY'S WORLD」と書かれている。発行主旨は、創刊前の8月10日付け『京都日報』の広告には「其目的は学術は暫く置くも兎角生意気が先に立ち敗徳者の最多き当今の女性を矯正し学術と淑徳と俱に完全の婦女を作るに有り」と書かれていた。

『通信女学講義録』は国内4機関、『日本新婦人』は国内3機関、『婦人世界』は国内2機関が所蔵するだけの稀覯雑誌である。それゆえ、日本国内には存在しない号もあるが、本集成には揃えられる分を全て収録し、底本には東京大学明治新聞雑誌文庫および昭和女子大学図書館所蔵資料を利用した。

『通信女学講義録』の主な執筆者とその作品	
名前	作品名
巖本善治	通信女学発行の主旨（1号）
鈴木弘恭	〔百人一首講義〕（10～15号）
長谷川泰	婦人病の元凶（14・15号）
船越鼎太郎	〔育児心得〕（1～15号） 懐妊の事（〔女子生理〕3～13号） 分娩の事（〔女子生理〕14・15号）

※名前は50音順。※〔 〕内は、『通信女学講義録』内でのジャンル。ジャンルには、ほかに「家内理学」「文学一斑」「万国史略」「子供の話」「西洋女礼」「理学一斑」などがある。
※『通信女学講義録』には署名原稿が非常に少ないため、執筆者が不明な作品が多い。

『日本新婦人』の主な執筆者とその作品	
名前	作品名
岡田朝太郎（虚心亭主人）	サモア追聞孝女譚（〔小説〕6～9号）
税所敦子	祝詞（1・2号）
嵯峨根不二郎	男女に職分の区別あるは自然なり（〔論説〕3・4号）
鈴木弘恭	徒然草講義（〔文学〕1～10号）
多田寛（古木山人／漁山人）	名末広貞操島台（〔附録小説〕9～12号） 学海の暗礁（〔小説〕10～12号）
棚橋絢子	女子教育の方向（〔論説〕1号） 新婦人伝（〔特別寄稿〕7号）
塚本不二子	神戸女学校の景況（〔投書〕4号）
土子金四郎	新婦人の発行を聞きて旅中の感を記す（〔論説〕1号）
中川小十郎	交際の秘訣（〔論説〕9号）
長澤市蔵	日本婦人の男子に於ける関係（〔論説〕2号）
蓮沼諒三郎	婦人会の維持方案（〔寄書〕10号） 宮城婦人の状況（〔寄書〕12号）
若山由五郎	新婦人の発行に付き一言す（〔論説〕2号） 空気の話（〔学芸一理科〕3・4号）

※名前は50音順。※〔 〕内は、『日本新婦人』内でのジャンル。ジャンルには、ほかに「社説」「学芸（家政学・料理法・育児法・美術）」「賢婦伝」「批評」「雑録」などがある。
※『日本新婦人』にはペンネームでの寄稿が多く、また署名原稿も少ないため、執筆者が不明な作品が多い。

『婦人世界』の主な執筆者とその作品	
名前	作品名
赤松連城	赤松連城師令女教会の法話大要（〔演説〕6号）
跡見花蔭	婦人世界に寄す（〔論説〕3号）
江村秀山	婦人慈善会講和（〔講和〕2・5号）
大洲鐵然	令女教会大洲鐵然師講和（〔演説〕7号）
金子錦二（静枝處士／竹遁門主人）	いまは草紙（〔小説〕3～8号） 文壇の塵（〔雑録〕9・11・14号）
神田翠爾	婦人世界発刊に就きて（〔論説〕1号）
菊池熊太郎	『婦人世界』の発行を祝して令徳会員にのぞむ所あり（〔論説〕1・2号）
鈴木弘恭	徒然草の第三段は猥褻に非る論（〔講義〕8号）
高安亀次郎（松の舎主人）	夫婦呼称法（〔論説〕3号）
武田明（天外散士）	明治の婦人世界に於ける仏教の婦人世界（〔論説〕9号）
武田篤初	女子道義学の講義総論（〔講説〕1号）
人見忠次郎	家庭教育論（〔論説〕1・2号）
宗像逸郎	儉約の要を論じて併て同盟俟約会の設立を望む（〔論説〕4・6号）
柳村客農	奇文欣賞—太平記一条（〔講義〕9～11号） 奇文欣賞—徒然草一段（〔講義〕13・14号）
和田繁太郎	堅田の落雁（〔余興〕8号）

※名前は50音順。※〔 〕内は、『婦人世界』内でのジャンル。ジャンルには、ほかに「家事」「衛生」「賢媛訓言」「詞藻」「伝記」「寄書」「質問応答」「雑報」などがある。
※『婦人世界』にはペンネームでの寄稿が多く、また署名原稿も少ないため、執筆者が不明な作品が多い。